

(別紙3)

目標達成計画

事業所名 グループホーム 成寿苑

作成日 令和5年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍において、運営推進会議の通常開催が困難となり、書面開催事態も滞る状態。 書面開催にて、コロナに対する感染対策の状態や、コロナ罹患の反省文章ばかりとなりうる報告に意味が見出せない状態。 コロナ禍での3年で周囲の変化が激しく、運営推進会議の構成メンバーの再構築が必要な状況。	R5年度より、概ね2か月に一回の通常開催を目標立てる	R5.5月～、新型コロナウイルス感染症が5類で扱われることから、地域コミュニティの多くがコロナ前に戻ることが予測できる。また、成寿苑も同様に戻れることを期待している。 ①開催、参加が定着しやすいように、日程を固定してみる (例：奇数月の第2金曜日 11:00～など) ②包括支援センターとの連携を再構築 ③徐々に地域参加の場を増やす (地域包括の地域の取り組みに積極的に協働、参加していく) ④月を追うごとに構成メンバーを増やす (定着させていく)	12ヶ月
2	23	現在にもご本人本位の姿勢で支援している。 センター方式の一部をツールとして活用し、積極的にご本人の思いやご意向の把握に努めている。 日々を重ね、変化する自らの状態との向き合う思いなど、普段からの言葉をとらえる仕組みは作っている。 しかし、終末期だからこそのご意向は、ご家族の送りたい側の思いや意向が優先されている現状がある。 これまで実践してきた事例に関して、精一杯努めてはきたが、手探りの状態で進んでいると言える。	医療面、治療の希望や、ケアの受け方、優先されたい想いの把握の拡充を目指す	言葉を失い、思いを表出できない時のご本人の代弁者としての自覚を持つ ACPへの取り組み ①職員に向けて ・エンディングノートやもしバナゲームなどを活用した周知、研修実施 ②入居者に向けて ・入居者とのもしバナゲームを活用しての情報収集 ・日々の会話の中での想いの把握は継続しながら、必要な場面をそのまま記録に残す	12ヶ月
3					ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。